



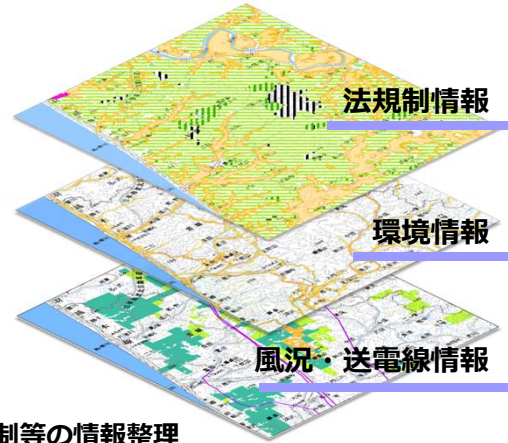
風力

風力発電の導入を強力にサポートします！

風力発電 立地調査

GISを利用した迅速な適地検討および立地調査

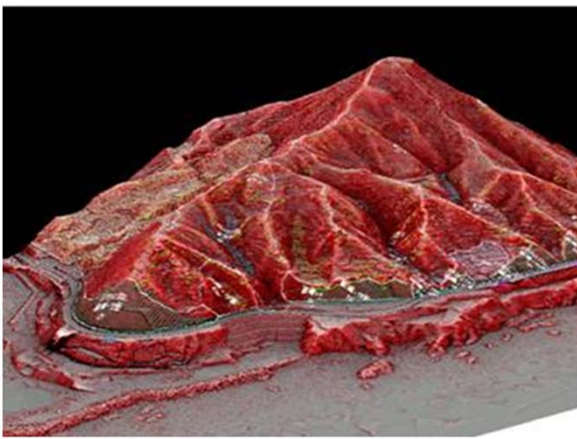
- 風力発電施設を計画する際には、事業性、環境影響、法規制を分析し、適地を抽出することが必要です。また、円滑に事業を進めるためには地元自治体の協力も必要不可欠です。
- 弊社では、豊富なGIS情報や解析技術、全国の拠点のネットワークを活用し、風力発電の適地の抽出、候補地の立地についてスクリーニング調査を実施します。
- さらに、各種法規制については、許認可等の情報整理を行い、風車の建設に必要な協議をサポートします。



GISによる法規制等の情報整理

風力発電 基本設計支援

航空機レーザ計測による詳細デジタル地形図の提供



航空レーザ測量成果を用いた3D赤色立体図

風力発電施設の候補地が絞られた段階では、風車の配置、取付道路のルート、付帯施設の位置などの基本設計が必要になります。これらの検討を効率的に行うために、詳細なデジタル地形図を整備することをお勧めします。

風車や取付道路の三次元での検討、土工量の算定、景観の解析、生態系の分析等を迅速かつ効果的に行うことができます。

航空レーザ測量成果を用いた3D赤色立体図

弊社は自社機による航空機レーザ計測技術を用い、詳細な地形情報を取得し、提供いたします

環境影響評価の実施

長年のアセス経験に基づく効率的な環境アセスメントの実施

環境影響評価法の改正により1万kW以上の風力発電施設には環境アセスが義務付けられました。また、平成25年4月からは計画段階配慮書の作成が必要となりました。

弊社は、長年の環境アセスの実績、環境省の風力発電に関わる業務の実績・ノウハウを有しております。

3Dモデルを用いた風車の景観評価

地域の合意形成、自然と共生をコンセプトに、計画段階配慮書の作成、騒音の調査・予測、希少猛禽類等の調査・保全対策の検討、景観の解析等、風力発電事業者の環境影響評価手続きを強力にサポートします。



3Dモデルを用いた風車の景観評価



事業実施に向けた流れ

アジア航測が事業化に向けてサポートできること

風力発電を導入するためには、おおむね下記の手順が必要になります



主な実績

- ・ H24/環境省「風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業」
- ・ H24/神奈川県「風力発電施設立地可能性調査」
- ・ H23-24/環境省「再生可能エネルギーに関するゾーニング基礎情報整備等委託業務」
- ・ H23-24/環境省「騒音を回避・最小化した風力発電に関する技術開発」
- ・ H23/環境省「再生可能エネルギー事業のための緊急検討委託業務」（環境配慮書案の作成）
- ・ H23/環境省「風力発電施設に係る環境基礎情報整備手法検討調査委託業務」
- ・ H23/環境省「風力発電施設に係る環境影響評価先行事例調査検討等」
- ・ H22-23/環境省「再生可能エネルギー導入ポテンシャル調査」

お問い合わせ先

